



2022年12月28日

各 位

会社名 株式会社 鮎子丸  
代表者名 代表取締役社長 石田 満  
(東証スタンダード・コード3075)  
問合せ先 取締役管理本部長 仁科 善生  
電 話 043-350-1266

## 2023年5月期第2四半期業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2022年6月28日付にて公表した2023年5月期（2022年5月16日～2023年5月15日）の第2四半期業績予想と本日公表の実績値について差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

1. 2023年5月期 第2四半期累計期間における業績予想と実績値との差異  
(2022年5月16日～2022年11月15日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	8,730	146	149	95	6円99銭
実績値 (B)	8,816	36	177	140	10円25銭
増減額 (B-A)	86	△110	28	44	—
増減率 ( % )	1.0%	△75.2%	18.9%	46.5%	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2022年5月期第2四半期)	7,860	△101	876	540	39円43銭

### 2. 差異の生じた理由

売上高につきましては、行動制限の緩和に伴うイートイン来店客数の増加に加えて、新店と大規模改装及び各種販売促進施策等が奏功し、当初予想を若干上回りました。

利益につきましては、原材料価格・物流費や、水道光熱費の想定を大幅に上回る高騰、積極的な老朽設備の改修に伴う修繕費・消耗品の増加に加え、SNS等新しい媒体のチャレンジのための広告宣伝費の増加、及びDX推進のための外注費の増加等により、営業利益は、当初予想を下回りました。

一方で、経常利益と当期純利益は、受取協力金（新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う各自治体からの協力金）129百万円を営業外収益として計上したことにより、当初予想を上回りました。

なお、通期の業績見通しにつきましては、来店客数及び客単価の堅調な回復に加えて、2022年9月の一部皿価格改定による収益力回復が見込まれることから、前回発表予想である売上高183億24百万円、営業利益3億77百万円、経常利益3億83百万円、当期純利益2億49百万円からの変更はございません。

(注) 上記の業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上